しんじょう
2006.9.1
すさき・かわうそクラブ会報
―No. 5―
発行：すさき・かわうそクラブ事務局

第2回 すさき野外博物館開催

かわうそのまちづくり事業の一環として実施している「すさき野外博物館」は今回で2回目となりました。

第2回「ツバメの塒（ねぐら）入り」

8月27日（日）午後6時から、桐間地区のヨシ原で確認されている「ツバメの塒入り」を観察しました。講師には、四国自然史科学研究センターの谷地森秀二先生をお迎えし、現存する自然環境を通じ、環境問題について学習しました。

ツバメは、冬の寒い間を暖かい東南アジアで過ごし、春になると日本へやってくる渡り鳥です。

みなさんも、春になると軒先などに巣を作り、一所懸命に子育てをしているツバメをよく見かけるのではないでしょうか。

ツバメは、7月頃になると子育てを終え、その後、親ツバメと巣立ったヒナたちは、数千羽から数万羽の集団を形成し、アシ原やヨシ原に「塒」を作り、南へ渡るまでの間を過ごすそうです。

須崎市内には、ヨシ原が数カ所ありますが、ツバメが塒としているヨシ原は、桐間地区のヨシ原だけだそうです。

ツバメが塒としているヨシ原。昼間はいない。

谷地森先生のお話によると、須崎市で確認できるツバメは、「ツバメ」「コシアカツバメ」「イワツバメ」の3種類で、この塒に集まるほとんどが「ツバメ」だそうです。

須崎市で見られるツバメについて説明してくださる谷地森先生。

観察開始

午後6時、ヨシ原にはカモやサギが集まってきました。空を見上げると、カラスが南の方へ飛んでいく姿が確認できました。まだツバメの姿はなく、だんだんと日が暮れていくといった感じでした。

カモやサギを観察しながら、ツバメが帰ってくるのをじっと待つ参加者。

午後6時15分、空はだんだんと薄暗くなり始めるも、ツバメの姿は確認されず。少々、不安な気持ちが・・・。

ツバメよ、ねぐらに帰ってこい。

午後6時30分、広い範囲を周回する1羽2羽のツバメを確認。参加者からは「あ、ツバメや」と、喜びの声も。ツバメは、徐々にその数を増やし、塒の上空を数十羽、数百羽のツバメが円を描くように飛ぶ姿が確認されました。

写真では見えにくいですが、空はツバメの大群です。

その後、ツバメの大群は徐々に飛ぶ範囲を狭め、高度を下げ、塒に入っていきました。もう、何羽入っていったのかわかりません。とにかくすごい数でした。

午後7時を過ぎた頃には、ほとんどのツバメが塒に入りました。あたりは暗くなっていましたが、双眼鏡でヨシ原を覗くと、ツバメがヨシにとまって、ヨシがしなっているのが確認されました。

塒入りした頃、辺りは真っ暗になっていました。

谷地森先生の話によると、数千羽のツバメがここを塒にして生活しているとの事でした。このヨシ原がなくなると、この辺のツバメは新たな塒を探さなければならず、見られるツバメも少なくなるのではないかとの事でした。

観察会を終えて

参加者からは、「ツバメをこんなに待ったのは初めてだ」「塒入りするツバメの数

にはびっくりした」などという声が聞かれました。

確かに、日常生活ではツバメを30分以上も待つことも、数千羽のツバメを見ることもありません。今回の「野外博物館」では、ツバメの生態を学習するとともに、須崎市に残る自然について知っていただけた事と思います。皆さんも一度塒を訪れてみてはいかがでしょうか。

なお、訪れる際には、自然環境や、そこにくらす生きものたちの負担になるような行為はしないようお願いします。

講師のご紹介

谷地森　秀二（やちもり　しゅうじ）先生

1967年8月19日生まれ　宮城県出身

NPO法人　四国自然史科学研究センター　センター長

趣味：生きもの観察・研究、読書、映画鑑賞

今後の予定（18年度）

すさき野外博物館は、下記の内容を予定しています。詳しい内容や日時などは、広報や、各公民館・学校などに配布するチラシでお知らせします。みなさん、ぜひご参加ください。

第3回
　わたり来る冬鳥たち（11月）
第4回
　冬に卵を産むカエルたち（2月）

気になる「ツバメの巣」について

ちなみに、高級食材で知られる「ツバメの巣」は、タイ、ベトナム、インドネシア、マレーシア、中国の海南島などのごく限られた地域に生息する「アナツバメ」の巣です。

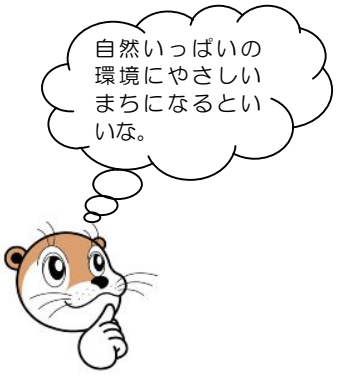
アナツバメは、アマツバメ目アマツバメ科アナツバメ属の鳥の総称で、日本で見かけるスズメ目ツバメ科の鳥とは系統が異なります。また、ツバメ類は泥で巣を作りますが、海藻を食べるアナツバメは、オスが産卵期にだ液線から分泌される粘液で約1カ月かけて巣を作ります。巣は、海に面した断崖絶壁の岩場に作られるため、採取するのが非常に困難であることや、採取する量が限られているため、高値で取引されています。

近所で見られる自然を紹介してください

みなさんの近所には、どのような自然が残されていますか。当たり前に目にするものでも、実は貴重な存在になりつつある環境の一つなのかもしれません。

「近所ではこんな自然（生き物）が見られるが、年々、少なくなっている」「他では見かけることのない自然がここにはある」といったものがあれば、是非、ご連絡ください。よろしくお願いします。

一人でも多くの方に現存する自然環境について知っていただき、カワウソと共生できる環境にやさしいまちづくりへのご理解とご参加をいただけるよう、取り組んでいきたいと考えています。



カワウソに関する情報をお待ちしています

カワウソが姿を見せなくなってから27年が経ちました。須崎市では、「カワウソは新荘川のどこかで生きている」と願いつつ、カワウソにとっても住みやすい、環境にやさしいまちづくりを目指し、市民の方とともに取り組んでまいりました。

しかし、カワウソの痕跡や目撃情報などは年々少なくなり、ここ数年間は全く寄せられていません。「もう、カワウソはいないんじゃないか」という声も聞かれます。

どんな小さな情報でもかまいません。カワウソに関する情報をお待ちしています。

ニホンカワウソ
昭和54年新荘川にて
（撮影：鍋島昭一氏）

「すさき・かわうそクラブ　会員募集中」

「すさき・かわうそクラブ」では、かわうそのまちづくりを応援してくださる方を募集しています。詳しくは、事務局までお問合せください。
また、かわうそのまちづくりに関するご意見・ご質問などもお待ちしております。

（事務局）　須崎市企画課　〒785-8601　高知県須崎市山手町1－7
TEL　0889-42-5691　　FAX　0889-42-7320
E-mail　kikaku2@city.susaki.kochi.jp